

国際貢献や膜技術など

日本水環境学会 関大でシンポジウム開く

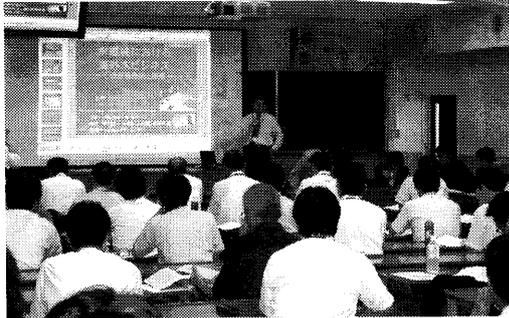
第11回日本水環境学会シンポジウムが9月17日から2日間、大阪府吹田市関西大学千里山キャンパスで開催された。各

研究委員会主催の14シンポジウム、若手研究紹介(オルガノセツション)で、順次発表が行われた。このうち、「水環境に

おける国際貢献と海外ビジネス」では、グローバルウオータ・ジャパンの吉村和就氏が「水環境における海外ビジネスとその市場動向と戦略」と題し、海外への情報発信の必要性など

を強調した。その他のシンポジウム題目は次の通り。▽水環境モニタリングのデータ活用と今後の展望▽微生物燃料電池―廃水から電気エネルギー回収―▽湿地・沿岸域を考える―生態系の機能評価と保全・再生技術―▽紫外線水処理・大規模化への論点と課題▽生き物から水環境を考える(Par111)―水質指標を超えて―▽嫌気性微生物活用の展開とその研究動向

▽バイオアッセイと浄水/下水/廃水の管理▽ノンポイント汚染のモデル解析(2) 統合的流域管理に向けて▽健全な水環境と水循環の創造のための膜技術の展開▽環境再生のための分散型処理システムの意義とこれからの展望▽環境微量分析におけるMS分析技術の課題と将来▽水中病原微生物の検出 古今東西▽産業排水処理における技術動向と課題



吉村氏が情報発信の必要性を強調

への情報発信の必要性など

▽バイオアッセイと浄水/下水/廃水の管理▽ノンポイント汚染のモデル